

WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

Newsletter

第36号
APR. 2012

2012年(平成24年)4月1日発行

早稲田大学機械工学科・ 機友会創設100周年記念式典を 振り返って

機械科学・航空学科教授 浅川基男



早稲田大学は1883年（明治15年）大隈重信侯45歳のとき産声をあげた。この中に理学科が置かれたが、初年度は8人、その後3名まで減少し、創立15周年記念式典で大隈侯は「初陣に失敗したのだ。此の理科の失敗は千載の遺憾である」と苦渋の中、理学科を廃止した。その後、実業界の重鎮であった渋沢栄一、竹内明太郎氏らの物心両面からの協力・援助を得て、1908年理工科予科の「機械学科」、「電気学科」を設立、合計100名の学生から船出した。初代理工科長の坂田貞一（図1）のもと、翌年理工科始業式が行われた。1912年（明治45年）理工科最初の卒業生37名を送り出し、工学士の称号

が授与された。科名はこのころより機械工学科に変更された。日本の大学に機械科が設置されたのは東京帝国大学（1877年）、京都帝国大学（1897年）に続き3番目であった。

一方、機友会は大学創立30周年記念式典が行われた1913年11月に発足した。この年は理工科創設後5年目に当たり、2回目の卒業生を送り出した年である。機友会誌第1号も年末に発行された。図2に同年の工芸展の写真、図3に機械学科の製図室、図4に1914年当時の学生アルバム顔写真を示す。現代の学生とだいぶ顔つきが違っている。図5に1917年当時に理工科学生が大隈侯の演説を聴講している珍しいス

ナップを示す。

機械科創設が1908年、機友会創設が1913年の間をとり、機械系学科と機友会は2011年にさまざまな100周年記念行事を企画することにした。まず、早稲田大学機械工学科・機友会創設100周年記念誌が発行された（図6）。機友会会長・河合素直名誉教授の巻頭言、理工学術院長・山川宏教授の祝辞のつぎに第1章「100周年を迎えて」と

CONTENTS

早稲田大学機械工学科・ 機友会創設100周年記念式典を振り返って	1~5
ボランティア活動に参加して	5
この1年を振り返って	6~7
機友会 トピックス	7
2011年度 機友会総会の報告	8
2011機友会各賞発表	9
新任教員のご挨拶	10
オリエンテーションの報告	11~12
ホームカミングデーの報告	13
サポート費	13
工場見学	14
機友会 ゴルフコンペ開催報告	15
2011年度ペアレンツデー	16
第31回早大モビリティシンポジウムの開催報告	17
パネルディスカッションに参加して	18
事務局からのお知らせ	18~20



図1 初代理工科長坂田貞一



図3 1910年 機械学科製図室



図4 1914年 機械工学科学生



図5 1917年 大隈總長の講演を聴く理工科学生

題し卒業生からのメッセージ、今後の100年にあたって各研究室の歴史・展望・学問の歩みを現役の先生方が紹介している。第2章「これまでの歩み」では機械工学科のこの10年の歩みを振り返り、山本・梅津教授から両学科が発足した経緯と主旨について詳細な報告がある。第3章「卒業生の進路&サークル活動」を紹介するとともに、機友会およびWMEニュースレターの歴史など、懐かしい写真・資料とともに掲載しており、是非ご一読をされるようお奨めしたい。

また記念募金についても、多くの機友会員の賛同により600万円近い寄付金をいただき、今後の機械両学科・機友会活動に有効に活用させていただくことになった。この場をお借りして、厚くお礼と感謝を申し上げたい。

さて、記念式典は2011年11月26日(土)に賑々しく大隈講堂で開催された(図7)。13時から開場し、校歌をバックグランドに100年の歴史を映像で繰り返し流した。この映像はタイからの留学生が担当した。開演の14時にはご来賓、ご招待者、教員、卒業生、在校生、合計400人近くの方々が集まった。元早稲田大学総長奥島孝康先生の記念講演に始まり、機友会会长・河合素直名誉教授、機械科学・航空学科の富岡淳教授および総合機械工学科の菅野重樹教授の式辞、ご祝辞に早稲田大学副総長・橋本周司教授および株式会社東芝・佐々木則夫取締役代表執行役社長、そして早大応援部の指揮の下、校歌斉唱、閉会の辞で幕を閉じた。その後ホテルリーガロイヤル東京にて約200名の出席者のもと祝賀懇談会が盛大に開催された。

以下に記念式典の内容について概略

ご紹介させていただきたい。なお、式典の司会は小職が担当した。

祝辞 元早稲田大学総長奥島隆康先生(図8): 100周年おめでとうございます。



図8 元早稲田大学総長 奥島隆康先生

理工科は1882年東京専門学校設立当初から、米国で天文学を学んだ大隈英磨校長のもと理学科が創設されました。初年度に8人。次年度に応募者なく、財政的にも困窮し頓挫してしまいました。再出発では小野梓先生も大変ご尽力され、明治41年、創立25周年で、初代の学科長坂田貞一を迎えて理工科を創設しました。小野梓と同じ土佐宿毛出身の竹内明太郎氏は土佐藩士、竹内綱の息子で戦後の総理大臣吉田茂の実兄であります。唐津で財をなし、現在の小松製作所(コマツ)の創業者でもあります。彼は私財を投げうつて工学教育に尽力し高知に工業高校を作り、ゆくゆくは大学をと思っていましたが、早稲田大学が理工科創設で苦労していると知り、資金のみならず用意していた教授陣も提供し、自分の夢を早稲田大学に託しました。坂本嘉治馬氏は同郷の小野梓に師事、早稲田大学を物心両面から支えました。宿毛が産んだこの3名をたたえて宿毛市に小野梓記念公園を早稲田大学が寄付致しました(図9に公園の中にある3名の胸像を示す)。125周年では大隈講堂と並ぶ場所にある法務研究科棟に小野梓記念

講堂を移しました。

次に23年間にわたり理工学部長をした山本忠興先生(図10)について触れさせていただきます。彼は理工学部に石油燃料学科、航空機学科も設立し200人以上を教育致しました。大隈候の依頼を受けベニンホフ博士はキリスト教の学生寮を作りましたが、戦時中に軍部がこの施設を接収しようとしたときに、敬虔なクリスチヤンであった先生はこれを早稲田で買い取ることにしました。これが早稲田奉仕園であり、その後奉仕園の理事長もされました。私は仏教徒ではありますが、奉仕園の理事長も兼任しました。先生は戦後国際基督教大学の初代学長もされました。このように理工には坂田貞一、元総長村井資長先生らキリスト教信者が多く続きました。

東大の有馬朗人元総長から「建学の3大教旨のような公式の文書で独創性を謳ったのは早稲田が初めて」と言われました。またロボットの加藤一郎先生から「独創は独走なり」と聞いておりました。「学問の活用」は早稲田がはじめて教旨としました。これは社会に貢献するという意味であり理工はこれを既に実践しています。大学の使命は希望を世の中に与えることであります。日本に資源がない、あるのは人的資源のみです。人的資源は若者であります。「若者に希望を!」、ご静聴ありがとうございました。

式辞 機友会会长・河合素直(図11): 明治15年、東京専門学校の開校と同時に8名の入学者により理学科が発足したのは大隈候が工学の重要性を強く認識していたからです。まだ工業のない我国に工学部などいらないとの世評の中で、大隈さんには先見の明が



図6 記念誌の表紙



図7 大隈講堂での100周年式典



図9 理工創設に貢献した小野・竹内・坂本氏の胸像(宿毛市の小野梓公園)



図10 山本忠興理工学部長(1937年)



図11 機友会会长 河合素直

ありました。最初は失敗したけれど創立25周年に念願の理工科、機械学科と電気学科の二つが発足致しました。日本は日露戦争を経て工業の発展期を迎えた。工学の隆盛を重ね今日を迎えた。この先見性に感謝せねばなりません。本学機械工学科を卒業されて母校の教員として山内、師岡、伊原先生らが学科の発展に大きく貢献され、卒業生が社会で大きな活躍をされ高い評価を得るようになりました。週刊ダイヤモンドの「役に立つ大学」では、毎年早稲田大学が文系・理系ともトップを占めています。卒業生の活躍が大学の大きな評価となり、それが名声を作りあげるのです。卒業生のご活躍に心より感謝申し上げます。

さて、人口減少社会、高度成長から低成長期への移り変わりに、我々がその事態をあらためて認識し、仕組みを設計し直すことが求められています。震災や環境問題では今までとは異なった新しい展望が求められ、持続可能な社会、成長の限界を考えた上で舵取りをする必要に迫られています。原子力についても脱原発から天然ガスへの発想は限界を迎えています。個人として組織として新しい観点から考え、工学技術に期待される役割の変化を考えるべきでしょう。大学の学習要項も「豊かな社会の実現」から「社会と工学技術との関連」をもっと深く考えなおすべきでしょう。早稲田大学の教旨にある「学問の活用」について、これからどう考えるか、「若者が育つ場」をどのように充実するか、課題は山積していますが、今後の100年の意味を考えながら、両学科が大きく飛躍して行くことを期待しております。

式辞 機械科学・航空学科 富岡淳

(図12) : 機械工学科が発展的に二つに



図12 機械科学・航空学科主任 富岡淳

分かれ、相互に補完していくことになりました。機械科学・航空学科が所属する基幹理工学部は木の「幹」を大切とし、数学・物理・力学およびその先の専門教育に力を置いています。

大隈侯は創立30周年で早稲田大学は「模範国民」を育てる大学と宣言致しました。模範的国民とは世界に役に立つこと、人格識見、道徳、人間性に優れていることです。この前提があってこそ数学・物理・力学、専門科目が生きるのです。大隈侯はまた「東西文明の調和」を謳っておりました。この意味するところは単なる融合ではなく、互いの違いを認め合うことがあります。奥島先生は「アジア人と同じ目線を持つ」、「泥水の中でのたうち回れ」と日々おっしゃっています。

機友会の100年後はどうなるでしょう？ 機友会があるからこそ本日二つの学科と両学科卒業生が集まることができたのです。機友会は今後とも二つの学科を結びつける役割を果たしていくことでしょう。大隈侯は125歳説を唱えていました。そのための健康の秘訣は「怒るな、愚痴をいうな、過去を振り返るな、望みを将来に置け、人のために善を尽くせ」と説いています。機友会もこの精神に則ればますます発展していくでしょう。

式辞 総合機械工学科 菅野重樹（図13）

(図13) : 大隈侯の最初の理科のスタートは「機械、採鉱、電気、土木、建築、応化」でした（以下プロジェクトを使用して説明）。それらの学科を具現化発展させたのが創造理工学部です。3つの学部を要約すると「基幹」は1年生で共通の基礎科目に力を置いて、



図13 総合機械工学科 菅野重樹

「創造」はプロジェクト型ものづくりを大切にし、「先進」はわかりやすく言えば物理・化学・生命を志向しています。創造理工学部に属する総合機械工学科は社会に直結した研究やプロジェクト型のものづくり、豊かな社会のクリエーターを志向しています。大きく3つの分野で構成されています。①デザイン共創分野では最適設計やH2ロケット衛星設計など、②ロボット・医療福祉分野では人間共生ロボットや医工連携（例えば大動脈瘤のシミュレーション）など、③環境・エネルギー分野では電気自動車、ウルトラライト自動車などです。今後とも両機械系学科が協力して機械工学分野を発展させて行きたいと思っています。

ご祝辞 早稲田大学副総長 橋本周司先生（図14）: 100周年おめでとうござ



図14 早稲田大学副総長 橋本周司先生

います。私は応用物理出身で、同級生がよく機友会のことを話しておりました。機械工学科はクラシカルで「何かを削っている学科かな」と思っていました。実はそうではなく、学理の先端を窮めており、物質材料、航空・宇宙、エネルギー、医学、環境など新しい研究を推進しており、名前はクラシックだけれども内容は新しい先端の学科だと認識しております。

さて、新しい理事会は鎌田総長体制で

ほぼ1年が経過致しました。VISION150を立ち上げ創立150年に向けて今から何をしようか考えております。まず大学の地位・あり方です。今まででは社会の要請に応えて、さらには社会に何ができるかと課題で手一杯、やや社会に推され気味でした。今後はよりグローバル化を進め、今の留学生4千人を更に拡大し、早稲田大学教旨に基づき、大学にさらなる開放性・多様性を求めて人類に貢献できる成果を生み出すことです。また技術のイノベーションから、カルチャーのイノベーションまで進めることです。今まででは夢を実現することに研究してきましたが、こうありたいというドラエモンの夢がほぼ実現してきました。今後は新しい夢は何か、次の100年の夢は何かを問うことです。VISION150はその途中の段階といえるでしょう。

ご祝辞 (株)東芝・佐々木則男社長(図15)：奥村研47年卒です。理工ポート



図15 (株)東芝 佐々木則男社長

に所属し4年間漕いでいました。1年の250日は合宿で4時半起床の毎日でした。卒論では有限要素法の正規のプログラムが無いのでコードから開発したこと覚えています。入社してまず、原子力事業本部に配属されました。その当時は福島1号機が運転最中でした。役員になってからインフラ全般を担当するようになりました。東芝には関係会社を除くと3万人従業員がおります。そのうち1.4千人が早稲田出身で、256名が機械出身です、早大出身の役員は8名です。このように早稲田大学は東芝ではダントツの勢力で早稲田大学無くして東芝は成立しないと言ってもよいでしょう。

東芝は幕末に田中久重がからくり時計を作り、それから田中製作所を作っ

たのが機械系の源流です。電気系では藤岡市助に始まります。明治のはじめ彼はアメリカに渡り、エジソンの研究室を訪ねました。エジソンは「日本を電気国にするのは大変よいことだ。だが一つだけ忠告しておこう。どんなに電力が豊富でも電気器具を輸入するようでは、国は滅びる。日本を自給自足の国にしなさい。」と応じたそうです。彼はその後白熱社を設立、これが東芝の電気系の源流となりました。

最近日本産業は大変厳しく、貿易収支が赤字になりました。何とか海外からの配当・利子などの所得収支でもってますが、経常収支が赤字になったら大変で円は150円ぐらいの価値になってしまふでしょう。そのために今から実力を蓄えておく必要があります。ものづくりの根底を支えてきたのは機械工学科です。本日の学科の話を聞いて大変良い研究をされており、大いに期待しております。コンセプトをまとめる力がないとソリューション(個別技術開発)もできません。大きなシステム(スマートコミュニティ)の構築は一つの学科や会社ではできません。アカリシスも大切だが、実用の高見を目標とした可能性を組み合わせするシンセシスができ、グローバルを見て、ローカルに活動する学生を生み出してほしいと願っています。

閉会の辞 機械科学・航空学科 浅川基男(図16)：さて、今後100年、機械工学はどのように、変遷していくのでしょうか？ そのヒントになるのが先達の生き様やその歴史を紐解くことと考えます(以下プロジェクトを使用して説明)。「早大理工」の「工」の上の横線は「天からの恵みであるエネルギー・資源」を表し、下に伸びる横線は「地上にある社会・人類」、上から下の縦線はその天から地へ恵みを与えるための「ワザ・技術」を意味するとも言われております。一方「理」の語源は掘り出したままの原



図16 機械科学・航空学科 浅川基男

石である「あらたま」を磨いて美しい模様を出すことあります。したがって、早稲田における「理工」とは、「工を理する」すなわち「工学を科学的に昇華・普遍化させること」であり、「理学と工学を併設した意味ではない」と理工100年史に記述されております。理工科と称しながらも工学系の機械学科と電気学科が最初に創設された意味もこれで納得できます。

初代理工科長の阪田貞一先生は1908年の早稲田学報で「理工科では数学・物理・力学・英語が必須。大学予科の間に十分鍛え上げる必要がある」さらに「理工在学中に原理を十分に研究すれば、社会に出てから著しく進歩する」と100年前から今を予見していました。すなわち、図17に機械工学の学問体系を示しますが、赤や橙色の学問が基幹・基盤であり今後とも深める部分、黄色の部分がその時代時代に於いて変遷していく学問・産業と考えられます。

Mechanicsとは「エネルギー・資源を活用して有用な「仕組み」、「物」を作り出すこと」にあります。機械工学は特定の産業分野に偏りが無く、建設・土木から電気・情報・サービスに至るあらゆる産業に展開できる点に大きな特徴

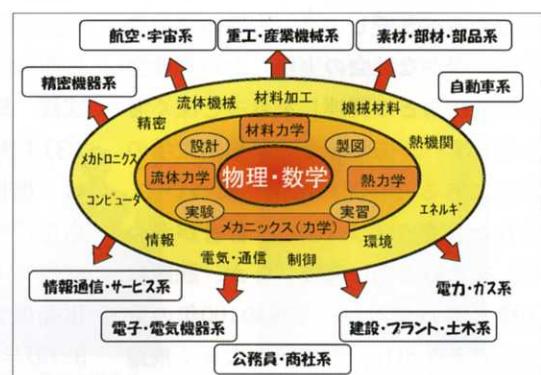


図17 機械工学の学問体系と社会貢献

があります。すなわち機械工学は理工系全体を俯瞰する「理工学部理工学科」と称してもよい立ち位置にあります。

以上をまとめますと、①教育面では「数学・物理・機械系専門学力などにおける深い造詣の涵養」であります。産業界で貢献する機械系エンジニア、大学を含めた研究機関等で顕著な成果をあげている研究者に共通する要素は、「基礎に裏打ちされた構想力（シンセシス）、ならびにこれを具体化する設計能力・実行力（アナリシス）」であります。②この主旨に沿えば、研究も「基盤的研究を深化させ、これに支えられた先進的研究の追求」が必須となります。この考えに「ぶれ」がなければ100年後も機械工学はますます発展するものと確

信しております。今後とも私どもは過去の先人に負けないよう高い志を持って機械教員、在校生、機友会が手を携えて邁進する決意であります。本日は誠にありがとうございました。

以上の式辞のあと、若々しい応援部の学生の指揮のもとで校歌を斉唱して式典は終了致しました（図18）。引き続き、祝賀会はリーガロイヤル東京で開催され、総合機械工学科の梅津光生先生の司会で進行し、山川宏学術院長の挨拶（図19）、斎藤孟名誉教授の乾杯で懇談に移った。その間、震災を受



図18 応援部の指導のもとで校歌を斉唱

けた南三陸でボランティアに参加した学生8名の紹介があり、続いて鄭世維氏より台湾機友会からのメッセージが伝えられ、最後に「早稲田の栄光」を全員で肩を組みながら歌い祝賀会の幕を閉じた。最後に、陰で支えてくれた機友会の事務局・学生アルバイトの諸氏（図20）、記念誌および会場準備にご協力頂いた大日本印刷に深甚の謝意を表したいと思います。

また、100周年記念募金に対し、多大のご協力をいただき誠に有難うございました。最終締切日は本年の3月31日になっておりますが、1月19日現在367名の方から、5,774,000円のご寄附をいただきました。最終決算報告はニュースレター秋号にてご報告いたします。



図19 祝賀会での山川宏学術院長挨拶



図20 記念行事を支えたスタッフ

宮城県南三陸町寺子屋プロジェクトのボランティア活動に参加して

東日本大震災から1年が経ちました。私が学生ボランティアとして宮城県南三陸町の被災地寺子屋プロジェクト-TERACOに参加したのは去年の8月でした。漁業が盛んであった南三陸町は約16mの津波により甚大な被害を受けた地域であり、TERACOにも家族や親戚、友達を亡くした子どもが通っていました。震災の後、漠然と被災地のために何かできることがないかと考えていた私は、総合機械工学科の梅津先生・高西先生の呼びかけによってTERACOの存在を知ることになり、勉強を教えることならば役に立てるのではないかと思いプロジェクトへの参加を決めました。しかし、実際に宮城を訪れると海沿いに近づくにつれて、津波に全てを流されて殺風景になった町

と瓦礫の山を望むこととなりました。テレビを通して見ると現地でその状況を目当たりにするのとでは大変な違いがあり、自然の脅威を感じるとともに、もし自分の故郷が同じ状況にならたら、辛い現実に立ち向かえられるだろうかと考えずにはいられませんでした。しかし、被災地の子どもたちは非常に明るく、一生懸命宿題に取り組んだり、友達とふざけてみたりと子どもらしい無邪気な笑顔を見せてくれました。私でも何か被災地の役に立てればという思いで行ったボランティアでしたが、実際には逆に子どもたちから強さや前向きさなどを教えてもらった気がします。町の復旧復興には長い年月がかかるで

しょうが、少しでも子どもたちの将来の選択肢を広げるためにも学びの支援を継続することは非常に重要だと思いました。今回、被災地に行き様々なことを考えるきっかけを与えてくださった梅津先生・高西先生やTERACOの代表である小楠さんに感謝するとともに、今後も被災地の復興を応援していきたいと思います。（文責 木村由実）



左側から堀内・木村・廣岡・吉住・川寄の方々

この1年を振り返って

名誉教授 河合素直



はじめに

早稲田大学には、45年間お世話になった。学生時代を含めると、50年を超えて、わが人生の大半を大学で過ごしたことになる。助手になった1966年は、いわゆる学費闘争で学内は騒然としており、4月に助手に嘱任されたという実感は全く湧かなかった。また、定年退職を迎えた2011年3月には、東日本大震災さらには東京電力福島原子力発電所の事故という未曾有の災害という状況の中で、卒業式も中止という事態となり、静かに3月31日を迎えることになった。このように、初めと終わりという一つのケジメがはっきりとしないものではあったが、大学院学生から助手へ、また教授から名譽教授へと連続した形としての大学との関わりであり、一般に言われる定年退職という人生の大きな変曲点という印象は極めて希薄である。これは、巷でよくいわれる「定年退職を機に新たな第2の人生を歩み出す」というような意識よりも、大学時代からのテーマに挑戦し続けるという思いが強いという特殊な(?)状況のなせる業なのかもしれない。そして同時に、半世紀余りを楽しく大学で過ごすことができたことは（またその延長としてこれからも退屈をせずに暮らせそうなことも）、大きな幸せであると感じるところであり、お世話になった多くの方々に感謝したい。

さて、定年退職後1年近くが経過したところで、機友会事務局の佐々木洋子さんからニュースレターの原稿の催促が来た。これは、退職という実感は、1年ぐらいたつしたところではないと湧かないのではないかという佐々木さんの配慮によるものである。そこで、このような観点から定年退職に関わる雑感を述べさせていただくことにする。

1. 何が大きく変わったのか？

まずは、健康に恵まれて45年間を過ごすことができたことに感謝しなければ

ならない。健康に過ごすことができたことの要因は、講義で大きな声を出し（時には怒鳴り）、黒板の前を動物園の動物のごとく、歩き回っていたことがあると思う。外山滋比古（「いつ死んでもいい」老い方 講談社）ではないが、「声を出して授業するのを口舌による健常法の実践であると考えれば、こんな恵まれた仕事はないことになる」ということでもある。ところで、健康に過ごすことができたということは、ストレスになるようなものがなかったという事であろうか？ 否、いろいろな局面でストレスを受け続けてきたことも事実である。しかし、健康に過ごすことができたことは、ストレスの対処法に長けていたのか、その折々ですっぽりと記憶の外へ忘れ去ることができるという、いい加減な性格によるものかもしれない（それに丈夫な胃袋を授かったこともある）。それでは、定年退職を機にストレスから解放されたと喜んでよいのであろうか？ 人間健康に過ごすためには、若干のストレスが必要であるという説がある。この説を信ずるが故に、健康な生活を維持するためのストレスをどう自分自身に課するかということが、定年退職後の大きな課題となってきているのである。

これに付け加えるならば、健康に恵まれたことの背景には、学生諸君から常に「若さ」というエネルギーを吸収することができたことがあると思われる。学生諸君と研究室で実験等に取り組み、いろいろな場面で「若さ」というエネルギーを学生諸君から吸収することができたということである。

したがって、定年退職による一番大きな変化は、ストレスから解放されたことではなく適度なストレスを担うにはどうすればよいかということと、学生諸君から「若さ」というエネルギーの供給を受ける機会が閉ざされたことにどう対処

すればよいかということを考えなければならなくなつたことである。

2. 時間軸のメモリが大きく変わるのだろうか？

ところで全く異なる観点からみると、定年退職を機に、一番大きく変わったことには、可処分な時間に囲まれて生活できるようになったことがある。講義あるいは会議などの制約条件が外され、自由に時間の使い方を考えることができるようになったということである。

筆者は、年齢を表すのには対数目盛が適していると考えてきた。歳を重ねるにつれて、1年が瞬く間に過ぎてしまうという感覚から、一目盛がだんだん短くなっていく対数目盛に譬えたのである。それでは、定年退職を機に、この対数目盛という仮説が成り立たなくなるということであろうか？ 種々の制約条件が殆どなくなってしまい、自由気儘に時間を使うことが可能となり、結果として満足できる充実した時間の使い方となり、一目盛が拡がると考えることもできる。しかし、よく考えてみると、残されている時間については全く未知であり、ある程度の覚悟をもって時間と対面することが必須となるのである。したがって、今まで以上に緊張した時間の使い方が求められることになる。

未だ1年しか経過していないが、感覚的には対数目盛のように時間の経過がはやく感じられる。この理由は、定年退職を機に今まで経験したことがないほどの自由に使うことが可能な時間が与えられたにもかかわらず、いろいろやりたいことが山積しており、しかも残されている未知なる時間を考えなければならず、結果として納得できる時間の使い方ができない状況が続いているためではないかと思われる。したがって、これから対数目盛の仮説が成り立つものかについては、暮らし方も含めていろいろ考えていきたいと思うところである。

3. 大学はこれから大きく変わるのか？

ここで、「若さ」というエネルギーの吸収について若干退職時の感想について述べておきたい。それは、小生が退職する何年か前からのことではあるが、どうも

学生諸君から「若さ」というエネルギーを吸収することについて、何か違和感のようなものを感じざるを得なくなったからである。小生が70歳に近づくにつれて彼らとの年齢上の開きが大きくなり過ぎたことが一因ではあるということは否定できないが、どうもそれだけでは納得できる説明がつかない現象が続出したのである。研究室という一つの共同体としての「学びの場」の存在が危機に瀕し、まさしく「学級崩壊」ならぬ「研究室崩壊」という現象を目の当たりにすることになってしまったのである（これは一寸大袈裟な表現かもしれないが）。この原因は、学生諸君の多くが楽しいサークルのイメージのようなものを持っており、単に卒業のための単位を楽しく取得できる「場」を期待していることがあると思われる。何故このような状況になってきたかについての詳細な考察は場を改めることにするが、簡単に要約すれば、若者から期待される「大学の機能」が大きく変化してきた結果と考えざるを得ない。彼らは、大学へ入学することによって人生の大きな一つの目的を達成したと感じ、あとは優秀な成績をとっている超一流の企業に就職することが最大の関心事となっているように感じられるからである。こう考えてみると、1985年に機友会の新入生歓迎会の講演で筆者が描いたマンガがものすごい説得力をもってくる。小生は「自立」が正道と考えてこのマンガを学部学生の尾崎正弘君に描いてもらったつもりであるが、いまこの図を見ると、超一流企業への就職が

決まり、「教育ママ」と万歳しているメガネ君が何か現在の時代状況を先取りしているように感じられてならないのである。では、このような事態はなぜ起きたのであろうか？ 彼らにも言い分はある。早稲田大学に入学し、いわゆる超一流企業への就職切符を手にして（つもりで）「人生最後の長期休暇」を楽しんで何が悪いのですか？ というような質問が返ってくるかもしれないからである。何故なら、彼らは大学に入学するまでは、いろいろなことを我慢し続けて来たのだから。

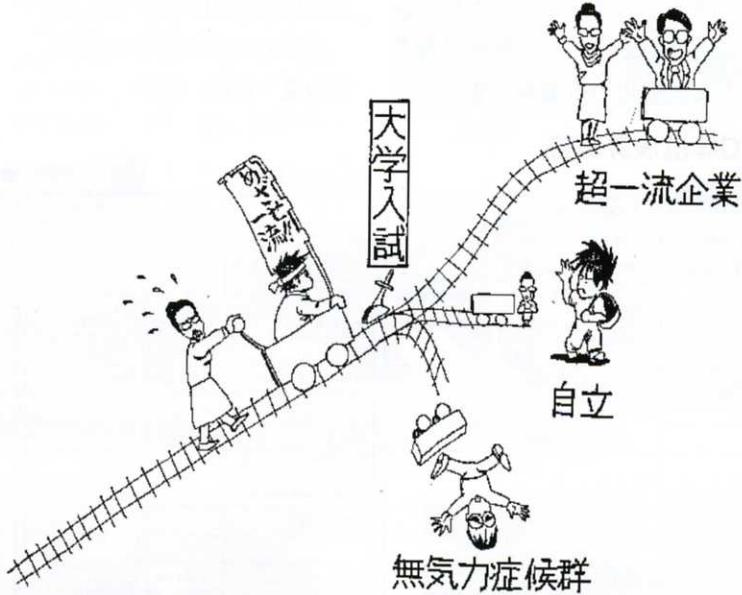
このようなことを考えていると、大学はなお変質をし続けるのではないかと思わざるを得ない（しかも18歳人口は高度成長期の約半分まで減少し、大学の定員割れが既に社会問題化しつつある）。大学においても、「学力低下」「勉学意欲の希薄化」等々、深刻な課題が突きつけられ、明るい展望を持つことが困難な今日

この頃である。それ故、筆者は、既に過去のこととなりつつある「良き時代」を大学で過ごすことができたということは、大変幸せなことであったと思わずにはいられないである。これからは、かつてのような若者から「若さ」というエネルギーを吸収する場どころではなくなってしまうのではないかと考えるところである（年寄りの余計な心配かもしれないが）。

おわりに

定年退職を機に考えなければならない課題は「いかに元気に歳をとるか？」ということである。若者からエネルギーの供給を受けつつ歩んできた路から、「若さ」というエネルギーを新たに確保し、適度なストレスを担いつつ「いかに元気に歳をとるか？」という課題に挑戦しなければならないのである。

何か纏まりのないものになってしまったが、定年退職後1年の実感である。



機友会トピックス

戸田 勧元特任教授平成23年秋に瑞宝章中を授章

戸田先生は2006年にJAXA（宇宙航空研究開発機構）退職後、特任教授として機械科学・航空学科に5年間職任されました。

この度の瑞宝章中の授章はJAXAにおいて宇宙・航空研究開発関連分野の集約の過渡期にあって大変な実績と功績

をあげられたことでの授章と思われます。

戸田先生は、林 郁彦研を昭和39年学部卒・41年修士を卒業されました。1月29日リーガロイヤルホテルに於いて、林先生を囲んで当時の設計コースの修士の人たちとささやかなお祝いを行いました。（文責 オリーブ）



2011年度 機友会総会の報告

5月21日（土）機友会総会が西早稲田キャンパスの理工学部55号館S棟2階第三会議室で開催されました。

総会の前には恒例の幹事会が開かれました。

総会は梅津（S49年卒）副会長の総合司会で進められました。河合（S39年卒）会長の開会の挨拶のあと、河会会長の司会のもとに総会の議事進行がなされました。まず、会計担当の荻須（S40年卒）理事による「2010年度事業報告」「2010年度決算報告」の個々の内容の説明がありました。収入の部では会費収入は前年とほぼ同額、学生の会費が若干増加しました。機友会の意義を日ごろから説明していただいた先生方のお蔭です。

一方、支出の部では事業費として100周年準備金として予定していた項目は実質的な支払いがなく、次年度に繰り越しました。通年の事業も東北の震災

のためゴルフコンペ中止やイブサロ延期等でそれぞれの予算を下回りました。

つぎに杉島（S27年卒）監事より監査報告がなされ、問題なく承認されました。「2011年度事業計画（案）」「2011年度予算（案）」は例年の活動項目ですが、次年度の100周年記念事業のための特別枠を設けたことと、次期も学生への支援をより厚くしようとこの面での予算を増やしております。

これら2案とも承認されました。決算報告を以下に示します。

ここで総会の議事が終わり、その他の行事に移りました。

最初に「機友会論文賞」の授与および受賞者の発表が石太郎（S42年卒）理事の司会進行でなされ、森崎君、張君の内容説明がありました。

受賞者は次の方々でした。

努力賞：森崎 陽平

『CAEを利用した学生フォーミュラ車両の吸気系統開発』

努力賞：張 振太

『オートクラッチ付きヨーヨーに代わる次世代向けヨーヨーの開発』

また台湾機友会の発足について、石岡（S32卒）相談役及び台湾機友会鄭（S40卒）氏よりの設立趣旨などの話がありました。

次いで、『機械工学科・機友会100周年を迎えるにあたって』というテーマで機械科学・航空学科 富岡主任、総合機械工学科 勝田主任よりスピーチがありました。

懇親会は56号館地下の生協のカフェテリアで100名余が集まり、浅川（S41卒）副会長の司会で例年どおり盛大に賑やかに歓談が持たれました。

最後に佐山（S49年卒）理事と学生会員の音頭で校歌を斉唱し、閉会となりました。

（文責 伊藤忠夫）

2010年度決算報告

収入の部

項目	予算額	金額	通期備考
前納分会費（10年度分）	3,718,988	3,741,988	
当期納入会費（10年度分）	1,950,000	1,430,709	
OB会費		1,177,750	1,431,000(11年以降)
学生会費		252,959	1,241,541(11年以降)
サポート費	1,000,000	1,175,000	
雑収入	200,000	258,651	
		4,651	銀行+郵貯
総会懇親会会費 3000x72名		216,000	
イブサロ1000×38名		38,000	
収入計	6,868,988	6,606,348	
前期繰越金	4,988,349	4,988,349	
合 計	11,857,337	11,594,697	

（参考）2009年度決算報告

支出の部

（参考）2009年度

項目	金額	備考
前納分会費（09年度分）	4,087,696	
当期納入会費（09年度分）	1,448,292	
OB会費	1,238,250	1,864,500(10年以降分)
学生会費	210,042	1,117,458(10年以降分)
サポート費	1,447,571	
雑収入	206,537	
		預金利息
総会懇親会会費 2000x58名		
見学会会費		
収入計	7,190,096	
前期繰越金	4,390,218	
合 計	11,580,314	

（参考）2009年度

項目	予 算	金 額	2010年度備考	金 額
事業費	7,100,000	3,705,461		4,020,490
ニースレター発行費	2,500,000	2,359,109	33・34号作成、発送	2,277,599
学生支援費	1,000,000	498,000	機友会サークル増額、オリエンテーション	329,600
奨学金	200,000	105,000		119,000
総会・会議費	600,000	487,536	総会、理事会、各委員会	493,504
行事・活動費	800,000	255,816	ゴルフコンペ中止、見学会無料、イブサロ延期	800,787
100周年準備金	2,000,000	0		
事務局費	3,050,000	3,128,857		2,571,475
人件費	2,000,000	2,123,750		1,835,350
交通費	350,000	325,100		288,400
通信費	200,000	170,842		151,394
事務用品・印刷費	300,000	379,498	パソコン更新	87,241
慶弔費	50,000	5,690	花・祝電	0
データベース管理費	20,000	47,250	パソコン修理	0
振込み手数料	100,000	76,727	30,260+31,857+14,610 郵便局+りそな	81,260
雜費	30,000	0		127,830
支出計	10,150,000	6,834,318		6,591,965

貸借対照表 2011年3月31日現在

貸借対照表			
借 方	貸 方	科 目	金 額
新宿北郵便局	3,684,817	機友会基金	6,325,798
郵便振替分	5,387,780	緑越金	4,760,379
三菱東京UFJ銀行新宿通支店	1,453,501	預り金入金済会費	6,142,980
りそな銀行新宿支店	2,942,411		
みずほ銀行新宿西口支店	3,458,045		
現金	302,603		
合 計	17,229,157		17,229,157

（参考）2009年度

（参考）2009年度

緑越金	1,707,337	4,760,379	4,988,349
-----	-----------	-----------	-----------

（参考）2009年度

合計	11,857,337	11,594,697	11,580,314
----	------------	------------	------------



校内の風景

2011

機友会各賞発表

機友会において、奨学を目的とした機友会特別賞・奨励論文賞・栄誉賞・奨励賞の4つの賞を設けています。

今回は残念ですが・奨励賞のみとなりました。

奨励論文賞

毎年夏休み前に対象となる、総合機械工学科2年、機械科学・航空学科2年生を対象に掲示でお知らせして募集しま

したが、1件の応募もなく残念なことでした。

募集については、新たにルールを考え

学年の対象も広げ応募をしやすく、確かなものにして行きたいと思っていまので、在学生の皆様よろしくお願いします。

機友会奨励賞

機友会奨励賞は、総合機械工学科1年生の授業であるビジュアルシンキングでの〔ホイストロボットコンテスト〕においてタイムが速かった優秀作品5件が選ばれ、その中の上位3件に賞状および賞金が授与されます。

ホイストロボットとは、スイッチを入れると200gのおもりを自動的に2m上げ下げるロボットで、授業ではそれを一人一機製作し、スイッチを入れてからおもりを一回上げて下げるまでのタイムを競いました。

今年は、独特な機構を持ちさらに高性能なロボットが多く、とてもハイレベルな戦いとなりました。



1X11B054 滋野 玄規

動作スイッチを押している安全ピンと規定の高さで上がるロープを麻糸で結び、ロープ上昇に伴いピンが外れスイッチがオフになる。

7/5 ビジュアルシンキング
ホイストロボットコンテスト成績及び機構優秀者

順位	学籍番号	名前	タイム
1	1X11B054	滋野 玄規	25.0
2	1X11B145	柳野 浩志	32.7
3	1X11B081	高橋 卓人	43.6
4	1X11B130	松村 薫	70.7
5	1X11B094	寺町 知峰	97.7
機構賞	1X11B065	鈴木 砂良	52.7(予選タイム)



高橋君 滋野君 柳野君

表彰式の様子



1X11B145 柳野 浩志

自動車の変速装置を参考にして、一定の回転数で巻き上げ器と動力源が物理的に切り離されるようにした。



1X11B081 高橋 卓人

本体はロボットというよりパスタの芯にあります。パスタを物理的に破壊することでおもりとロボットの繋がりを断ちます。

機友会論文賞の募集についてのお知らせ

機械科学・航空学科と総合機械工学科2、3年生の学生の方々から身近な考え方やアイディア等を論文としてまとめ応募してください。募集の詳細については夏休みに入る前に52、53号館の掲示板にて掲示にてお知らせします。

早稲田の伝統を継いだ若い力を宇宙に飛翔させたい

機械科学・航空学科 教授 森野美樹

2010年4月、機械科学・航空学科に赴任いたしました。私は東京大学宇宙航空研究所（現JAXA宇宙科学研究所）で固体ロケットの動特性について研究し工学博士号を取得し、その後宇宙開発事業団（現JAXA）でH-I、H-IIなどの大型国産ロケットの開発、人工衛星構造開発や将来型ロケット構造・材料研究などに長らく従事してきました。近年ではこれと並行して東京工業大学大学院の研究指導や国際宇宙大学（ISU）での異文化交流宇宙教育活動などに携わってきました。

早稲田の卒業生の皆さまとはこれま

で色々な場でお付き合いさせていただき、本学の伝統ともいべきバイタリティーや斬新な発想をお持ちの方が多いのに感銘しております。私のこれまでの研究開発活動のメインテーマは、将来の宇宙活動をレベルアップさせるための原動力としての効率的な新規宇宙輸送手段を提案することでしたが、その明らかな重要性にもかかわらず、正直言ってこの分野の活動はここ10年以上にわたり世界的に沈滞化の傾向にあることが否めません。早稲田の現役の学生さんには個性ある人が多く、かつ連帯感が高いので、授業や研究室活

動などを通じ宇宙開発の活発化に資する意欲的で創意ある卒業生を一人でも多く育てたいと願っています。

このためにも機友会のような世代を越え、分野を越えた活動が活発化することが非常に大事なことだと思います。私もそのために出来ることがあれば、精一杯のお手伝いをしたいと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。



伝統ある水力機械研究の伸張を目指して

機械科学・航空学科 准教授 宮川和芳

昨年9月に機械科学・航空学科に着任しました。1985年に早稲田大学理工学研究科博士前期課程を修了し、三菱重工業の研究所で、水車、ポンプ、圧縮機などのターボ機械の研究開発を実施してきました。

着任早々26年ぶりに58号館の流体実験室を見学させて頂きました。まず始めに大田英輔名誉教授、太田有教授が構築された数々の圧縮機試験装置や、山本教授が研究されている軸方向水流を伴う長軸ロータ試験装置など会社の試験設備にも劣らない規模と精巧さに驚きました。さらに、地下水槽、屋上のオーバーフロータンクを始めに高圧バルブのキャビテーション試験装置、その高圧水を作るための600mの揚程を持つ9段高圧多段ポンプ、一射ノズ

ルペルトン水車、メカニカルガバナー付フランシス水車など水力機械の試験設備も多くあることを知り、本当にうれしく思いました。（多くは学生の頃からあったはずですがほとんど記憶に残っていませんでした。）その後、フランシス水車のガバナーは昭和2年製であることもわかり、58号館の内燃機実験室前に置かれているワットのガバナーとともに機械遺産になるほどの試験装置の存在に、早稲田機械の伝統をしみじみと感じました。これらはぜひ機友会の皆様にも見て頂きたいと思います。

今後は、水力機械を中心としたターボ機械の研究開発を実施していくことを考えております。産業界でのターボ機械のニーズは、決して衰えてはおらず、

相対的に大学でのターボ機械研究者は著しく減ってきており、上述の試験装置を何とか復活させ、空力から水力まで幅広いターボ機械を扱うことのできる数少ない大学として発展できるように努力していく所存です。産業界で使える有用な成果を出すこと、戦力になる学生を育成していくことを課題として、大学での生活を送っていこうと思いますので、機友会の皆様のご指導、ご鞭撻を頂きたくよろしくお願い申し上げます。



オリエンテーションの報告

2011年度総合機械工学科 1年生オリエンテーション報告

総合機械工学科 助手 川村和也

5月14日（土）、15日（日）に、総合機械工学科1年生オリエンテーションを軽井沢セミナーハウスで実施しました。その内容をこの場をお借りして報告させていただきます。参加人数は本学科の入学者数158名の内151名、また、教員・助手16名とTA17名になりました。

14日（土）の朝、バスにて西早稲田キャンパスを出発し、例年と比べて時期が早いこともあり、向かう途中の沿道やセミナーハウスの敷地内の桜に出会い、セミナーハウス到着後、昼食をとり、各バス対抗のスポーツ大会を開催し、学生はサッカー、バスケットボール、ソフトボール、テニスの4種目に分かれ、お互いに汗を流しました。当日は快晴に近い天候で、気温もちょうど良く絶好のスポーツ大会日和となりました。優勝チームには豪華賞品として早稲田大学クラッチバックおよび賞状などが贈呈されました。夕食

後、4部屋に分かれて、本学科教員によるオリエンテーションが行われました。質疑応答を含め20分程度で行われ、研究の最前線からの話題提供や、本学科で学びエンジニアや研究者として社会に出るための心構えなどが紹介されました。熱力学、ロボット、材料工学など多岐に渡る分野の教員の話に、学生はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。引き続いて同会場で懇親会が行われ、教員やTA、学生らが、菓子やジュースを囲み、歓談を交えながら交流を深めました。翌15日（日）は、集合写真を撮った後、軽井沢駅近傍のアウトレットモールにて昼食やショッピングなどの自由時間を過ごしました。その後バスは新宿駅西口に向かい、16時頃に解散となりました。

震災のため例年より大学全体のスケジュールが遅くなっている中、早い段階で開催されたオリエンテーションということもあり、周囲の友人が増えた

という意見が多く聞かれました。懇親会の場では、参加した学生から、どのような研究が行われているのか知れてよかったです、自分も参加してみたい、といった意見も聞くことができ、オリエンテーションの目的が十分に達成されたと感じています。入学して間もないこの時期に、教員やTAと学生が一つの場を共有し、ディスカッションできることで、学生諸君の今後に一役買うことことができたのではと思います。本オリエンテーションが、本学科において様々なことを学んでいくモチベーションに、ひいては自身の夢の実現に向け活躍するためのきっかけとなれば、幸いです。

最後に、全日程を通して大きな事故やトラブルが生じず無事に開催することができ、協力頂いた先生方や、助手、TAの方々及び、機友会の皆様にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。



2011年度オリエンテーション集合写真



追分セミナーハウス正門への道

オリエンテーションの報告

機械科学・航空学科 2年生オリエンテーションの報告

機械科学・航空学科2年生クラス担任 准教授 柳尾朋洋

2011年度に晴れて機械科学・航空学科に進級した新2年生の皆さんをお迎えして、4月27日（水）にオリエンテーションと懇親会が開催されました。3月の震災の影響が心配される中での開催ではありましたが、たくさんの中の新2年生の皆さん、上級生の皆さん、そして先生方に出席して頂き、楽しくて温かいひと時を過ごすことができました。

前半のオリエンテーションは、西早稲田キャンパスの52号館101教室で行われ、いつもの教室が、新2年生の皆さんと学科の先生方との最初の顔合わせの場となりました。はじめに、学科主任の富岡淳先生から新2年生の皆さんに歓迎のメッセージが贈られ、新2年生の皆さんにはこれから始まる機械科学・航空学科での活動に気持ちを新たにされていました。続いて、学科の先生1人1人がスライドショー形式で新2年生の皆さんに向けて工夫を凝らした

自己紹介・研究紹介を行って下さいました。先生方の自己紹介・研究紹介は、それぞれが約3分と時間的には限られたものでしたが、熱流体、航空、宇宙、応用数学、システム制御、環境、エネルギー、材料、加工、機能設計、マイクロ工学……などなど、新2年生の皆さんにとって真新しい研究分野や専門用語が繽々と紹介され、皆さん将来の研究テーマに大きく想像を膨らませていた様子でした。

オリエンテーションの後は、西早稲田キャンパス内のレストラン馬車道に場所を移して、みんなで軽食を囲んで懇親会を行いました。懇親会には学科の先輩を代表して10名の新4年生が駆けつけて下さいり、ステージ上で、大学生活や研究活動に関する質問に答えながら、新2年生の皆さんに有意義なアドバイスを送って下さいました。また学科の先生方には、質問の書かれた紙をくじ引き形式でお1人ずつ引いて頂

き、学生時代に力を入れたことは？おすすめの本は？ 休日の過ごし方は？ 尊敬する人物は？ などなど、日頃あまりお聞きすることのできない質問にお答え頂きながら、深みのある教訓やエピソードを披露して頂きました。

4月当時新2年生だった皆さん、もうすぐ新3年生になろうとしています。学科進級当時の新鮮な気持ちを忘れずに、これからも共に成長していく幸いです。最後になりましたが、今回の企画に多大なご支援を賜りました機友会の皆様に厚く御礼申し上げます。また、オリエンテーションと懇親会にご出席下さいました先生方、会の企画と運営を助けて下さいました助手・助教の方々、先輩を代表して懇親会に出席して下さいました4年生の皆さん、そして何より、学科への期待を胸にオリエンテーションに参加して下さいました2年生の皆さんに御礼申し上げます。



52号館101教室でのオリエンテーションの様子



レストラン馬車道での懇親会

ホームカミングデーの報告

ホームカミングデーが2011年10月16日（日）に開催され、機友会も、例年通り早稲田大学本部キャンパスの7号館220教室に懇親会場を設け、来校された会員の皆様の出会いの場として用意しました。

午後1時から浅川基男先生の司会により河合素直機友会会长による開会の挨拶で始まりました。河合会長からは、2011年11月26日に開催される「機械工学科・機友会創設100周年」記念式典についての紹介があり、今後はこれまでの単なる延長ではなく、次の時代における機械工学のあり方を考え、大きく舵を切る機会としてとらえなければならないと考えている、とのお話がありました。

その後、田島清瀬名誉教授の音頭で乾杯し、懇談に入りました。山本勝弘先生（昭和42年卒）からは歓迎の挨拶があり、機械工学科の歴史と共に最近の理工学部及び機械工学科の再編の話が紹介されました。また、新任の先生として鈴木進補先生と宮川和芳先生か

らの挨拶も行われました。

その後、昭和37年及び42年の招待年次者の代表の方からご挨拶を頂き、山口富士夫先生及び本村貢先生から閉めのご挨拶を頂きました。最後に卒年別に記念写真を撮り、お開きとなりました。今回は60名弱の方々が参加され、思い出深いホームカミングデーとすることことができました。なお、今回のホームカミングデーの招待者卒業年度は下記の方々でした。

〈卒業後50年目〉

昭和37年（1962年）卒業の方

〈卒業後45年目〉

昭和42年（1967年）卒業の方

〈卒業後35年目〉

昭和52年（1977年）卒業の方

〈卒業後25年目〉

昭和62年（1987年）卒業の方

〈卒業後15年目〉

平成9年（1997年）卒業の方

次回のホームカミングデーは、2012年10月21日（日）に開催されます。招

待者の卒業年度は昭和38年卒、昭和43年卒、昭和53年卒、昭和63年卒、平成10年卒です。

多数ご来校のうえ、機友会の懇親会場へもお気軽に立ち寄り頂き、最近の大学の状況を聞くと共に昔話に花を咲かせて頂きたいと思います。

招待学年（42年）
山本先生

（文責 浜野雅夫）



学年別の集合写真



サポート費のご協力有難うございました。

2011年2月4日より2012年2月3日の間に85名の方々と2グループより総額631,172円のサポート費のご協力がありました。誠にありがとうございました。

この1年間は機友会創設100周年の祝典もあり、別途記念寄付金のお願いもありましたにもかかわらず、このような多額のサポート費をいただき大変恐縮しております。従来通り機友会発展のために役立てるとともに式典の支援にも使わせていただきました。

機友会の会費のみでは活動を永続的に続けるのは厳しい状態ですので、皆様のご支援に大変感謝しております。どうぞ今後とも皆様の多大なるご支援・ご協力を賜りたくお願ひする次第であります。本当にありがとうございました。

2011.2.4～2012.2.3（敬称略）

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
昭和15年	羽田 勝彦	昭和29年	八田 達雄	昭和32年	西村 幹夫	昭和35年	森田 裕之
昭和16年	奥村 敦史	昭和30年	永島 俊三郎	昭和32年	谷口 直三	昭和35年	野池 敬三
昭和18年	片岡 一雄	昭和30年	覚張 常二	昭和32年	塚崎 文雄	昭和35年	大村 隆士
昭和21年	吉森 信夫	昭和30年	若尾 昭	昭和32年	清水 旭	昭和35年	三十五会
昭和21年	松原 雅道	昭和30年	沢田 英雄	昭和32年	増田 懿昭	昭和36年	倉石 篤
昭和22年	日比 浩	昭和30年	鈴木 孝	昭和33年	中沢 和之	昭和36年	岩渕 廣
昭和22年	田村 献	昭和30年	岸 政吉	昭和33年	佐渡 弘一	昭和36年	勝田 治男
昭和22年	渡辺 正清	昭和30年	矢杉 正明	昭和33年	堀井 英範	昭和37年	利根川 瑛
昭和23年	田中 博一	昭和30年	石川 吉通	昭和33年	桜井 治男	昭和40年	鄭 文哲
昭和23年	津村 喜代治	昭和31年	和田 博文	昭和33年	樺山 亨	昭和41年	坂井 忠正
昭和24年	片山 啓次郎	昭和31年	織茂 芳三	昭和33年	大淵 昭	昭和41年	矢貫 徹
昭和25年	平野 俊雄	昭和31年	土屋 正司	昭和33年	香川 達雄	昭和42年	犬塚 亮
昭和25年	山田 稔	昭和31年	高橋 三雄	昭和33年	近藤 芳夫	昭和43年	鬼澤 秀夫
昭和26年	増田 次郎	昭和31年	増田 昌士	昭和33年	小野 益美	昭和44年	長濱 利夫
昭和26年	渡部 陽	昭和31年	高橋 義男	昭和33年	笛 明	昭和46年	黒沢 誠
昭和27年	新井 保文	昭和31年	白川 宏	昭和33年	鍵山 一郎	昭和52年	内田 雅之
昭和27年	赤井 民幸	昭和32年	石岡 貞雄	昭和33年	佐藤 智士	平成01年	高橋 雄太
昭和27年	坂井 徳郎	昭和32年	若林 峰一郎	昭和33年	渕上 惣エ門	平成06年	坂本 真一
昭和27年	金田 元吉	昭和32年	佐伯 俊造	昭和34年	山口 富士夫	平成11年	宮本 悟
昭和28年	加納 節三	昭和32年	伊藤 神八	昭和34年	木内 浩	元 職 員	佐々木 洋子
昭和29年	鏡原 一朗	昭和32年	江口 昌典	昭和34年	久保 光生	設計コース卒業生有志	
昭和29年	有元 昭	昭和32年	古屋 泰二郎	昭和34年	横尾 宏		

工場見学



集合写真（東京ガスにて）

工場見学も回を重ね、第11回目を迎えるました。今回は理事の真下 進（40年卒）さんの協力により東京ガスの根岸工場の見学に行きました。

京浜東北線の磯子駅に集合し、東京ガスの送迎バスで根岸工場に向かいました。

最初に広報センターの方の説明から始まり、工場長の角田様からご挨拶をいただき、次に所長の木村様からスライドを使って東京ガスおよび根岸工場の歴史の説明がありました。

我国のガスの利用は明治5年石炭から製造したガスを用い、ガス灯として馬車道に明かりを灯したのが始まりで、東京ガスはその後、明治18年に創立されました。昭和30年からは本格的にガスを作り供給し、昭和41年から原料が石油に変わり、現在は天然ガスLNG（Liquefied Natural Gas）を使用し長期安定的に供給しています。根岸工場は日本で最初にLNGを受け入れ、その8割は都市ガスとして家庭に、後の2割は発電用燃料として隣接する東京電力（株）南横浜火力発電所に送られています。

これらの説明の後、工場内の見学に

入って行きました。

見学の工程はバスを利用し約20分をかけ、工場全般およびLNG蒸発器・地下貯蔵タンク・受入れバース・冷熱利用発電設備・プラントコントロールセンター等の見学をし、その後室内に入り、超低温状態の（-162°C）液化天然ガスの低温性・燃焼性等について実験を行っている施設で説明が行われ、一部実習をさせてもらいました。また、見学していく注目したのは、工場緑化の推進およびLNG

タンクの地下化により周囲との環境調和と地震を想定した安全対策を図っていることでした。また、LNGの冷熱エネルギーは空気液化分離による液体酸素や液体窒素、ドライアイス製造、超低温倉庫などに有効に利用されていると説明され、21世紀の課題である環境と我々の生活の安定を考えている企業だと思いました。

その後、最初の部屋に戻り質疑応答の時間があり技術的な質問が多くありました。その中で3月11日の地震の後だったので、地震への対応についてもありました。その後、恒例になっている懇親会を場所を変えて行い、懇親会では鍵山一郎（33年卒）東京ガス元副社長他、同期の方、また久保田喜美雄（30年卒）さんも今回初参加で大変喜ばれていました。

今回も40名近い参加があり誠に有難うございました。また、改めて東京ガスの方にお礼申し上げます。

それでは過去の見学先を一覧にしました。皆様思い出して見てください。

キリンビール横浜工場・東京都新江東清掃工場・メトロ西早稲田駅建設現場・全日空羽田整備工場・三井造船千葉工場・宇宙航空研究開発機構・早大本庄キャンパス・三菱重工業横浜製作所・大丸有都市計画 丸の内冷暖房設備・東洋製缶横浜工場

会員の皆様今度はどこに行きましょう……アイデアがあればメールしてください。

（文責 オリーブ）



日本で初めてLNGを受け入れた根岸工場

機友会 ゴルフ コンペ開催報告 春

2011年11月10日川崎国際生田緑地ゴルフ場で開催された第27回機友会ゴルフコンペでの優勝者下山さん（昭和36年田島研卒）からのコンペ参戦記です。

ペリア方式は魔物か、それとも女神か？

下山 成人（昭和36年卒）

当日は天気に恵まれ皆さん元気にプレーされました。参加人数は44名でした。ここ数年コンペ参加者の数は機友会の皆様のご協力で少しずつ増加傾向にありました。

それが今回前回の51名から一気に7名も減ったのは残念ですが、これも東日本大震災の影響による一時的現象であると考えられなくもありません。次回からの巻き返しを期待したいものです。

さて、私事で恐縮ですがこの機友会ゴルフコンペの一週間前に行われた高校の同期会ゴルフコンペで私は生まれて初めてブービーメーカーを取っていました。ブービーは取ったことがあってもどん尻は初めてでした。腰痛も良くならない上、左足の膝を痛めまともなゴルフが出来ないと悟った私は引退を決意していました。そんな時、同期の人間で何とか一組作りたいから出てよと頼まれ、今回初めて参加したのが第27回機友会ゴルフコンペだったのです。調子も前年より悪かったし、スコアは下記のとおりでしたので私は競技終了後すぐ失礼して帰るつもりでしたが、まあこれが最後だろうからと言われ懇親会に出たのでした。

ちなみにスコアはアウト50・イン48=98、ハンドicap33.6ネット64.4で

した。

順位の発表が始まりました。驚くことに4人参加した同期（36年卒）の内二人が5位と準優勝に入りびっくりしていました。まさかその後にとんでもない事態が待っていようとは思っていません。「優勝、下山さん」と名前を呼ばれた時は頭が真っ白になりました。「そんな馬鹿な！」と思いました。

パーコソ5つ取れましたが沢山大たたきをしていたからです。大たたきしたホールがすべて隠しホールとなっていたに違いありません。後で調べてみるとインコース、アウトコース共に同スコアの方が30位ぐらいのところにいらっしゃいました。

私はゴルフでは過去に会社のコンペ、高校同期のコンペ、大学同期のコンペ等で優勝を何度か経験していますが、すべて義理でいやいや参加したとか、病み上がりだったとかの時であり、練習で調子を上げ自信をもって望んだときは一度も優勝していません。ゴルフはやはり無欲で望むのがよさそうです。

しかしながら今回は36年卒から4人参加して3人までが入賞とはやはりペリア方式は魔物というべきでしょうか。

36年卒と言えば懇親会での浅川先生による大学近況報告は50年前（即ち昭



下山さんと泉会長

和36年）と現在の学生気質の興味ある比較分析でしたので何か36年と因縁の深いコンペだったような気がしてなりません。これを機に36年卒のコンペ参加者数を増やすことに尽力しなければいけないのかなと言う心境になってきました。

優勝者がコンペ参戦記を書くことになっていると知らされたのは12月に初めて機友会ゴルフ委員会に出席した時だったのです。そんなことならコンペ当日皆さんの様子をよく観察しておけばよかったと思いましたが後の祭りです。では過去の参戦記を参考にしようと見せていただいたところ、コンペ参加資料から書けそうなことは大体過去の参戦記に書かれているではありませんか。そんな訳で私事を長々と書いてしまった次第ですのでお許しください。

ペリア方式は魔物ですと先に書きましたが機友会ゴルフ委員会に出席してがらりと考えが変わりました。今まで先輩、後輩を含めて同期以外の方々と知り合う機会がありませんでした。ところがこの機友会ゴルフ委員会で卒業年度の異なる方達が和気藹々と付き合っておられる姿を見て、ああ優勝したことによって素晴らしいお付き合いの出来る機会が与えられたのだと感じたのです。

ペリア方式は正に幸運の女神です。さあ、皆さんも奮って機友会ゴルフコンペに参加し幸運の女神に出会ってみてください。人生の輪が広がりますよ。



集合写真（ゴルフ場にて）

2011年度ペアレンツデー

機械科学専攻 修士1年 富岡研究室 市川 敏

11月5日（土）、機械科学・航空学科ペアレンツデーが西早稲田キャンパス57号館にて実地されました。同日に理工展が行われていたこともあり、キャンパスはいつもと違った雰囲気で包まれ、150名を超える参加者の中、学科主任の富岡先生の挨拶を始まりとして終始和やかな雰囲気で会が進められていました。

今年は3月11日の東日本大震災などの影響で就職氷河期の再来とも言われていることもあり、学科説明会での先生方のお話・ご父兄の質問の中で、進路に関するものが非常に大きな比率を占めていました。3年生クラス担任の手塚先生の学科説明、4年生クラス担任の酒井先生からの2011年度の就職状況の説明や、浅川先生のお話では、ご父兄からの助言が学生に大きな影響を与えることや、社会変化も大きい昨今、安定志向の就職を望む学生が多い中、安定を求めることが就職ではないことを伝えられていきました。機友会の矢吹様・佐山様からのお話では、機友会の紹介から始まり、企業に入ってからの経験や、日本の経済を支えるエンジニアとしてのるべき姿勢について等、貴重なお話をして頂きました。学科説明会の最後にご父兄から寄せられた質問につい



ペアレンツデーの会場風景

て先生方が回答する全体質問では、大学院へ進学することの意味や進学方法、就職における学校推薦に関する質問など、ご父兄方の関心が進路に向かっていることが強く印象に残りました。

学科説明会終了後は個別質問会とキャンパスツアーが同時に実地され、全体質問では聞けなかった質問等を、先生方と一対一でじっくりとお話ができるようになっていました。キャンパスツアーでは多くのご父兄が参加され、材料・工作・熱・流体の各実験室と63号館、製

図CAD室をTAの誘導の元、案内しました。普段行かれているキャンパスツアーとは違い、各実験室に入室することができ、その際、助手・助教の方から詳しい説明を受けることができる、ペアレンツデーだけでしかできない大学の深部を案内することができました。今年は流体実験室で風洞実験を実際に実演していただいたこともあります、ご父兄方は普段学生が送っている生活の一端を見る事ができたのではないかと思われます。

去年・今年とペアレンツデーのTAとして参加し、受付にて来場されるご父兄の顔を見る機会があります。受付時に真剣な面持ちをされている方が多いのですが、ペアレンツデーが終わった後、お帰りになるご父兄の顔は安心しておられる方が多いです。これはペアレンツデーを通して、大学とご父兄方との間に信頼を築いたことの証であり、これからも継続して実施することは日々勉学に励む学生にとっても有意義であるのではないかと思います。

最後に、ペアレンツデー実施に際してご協力いただいた先生方、助教、助手、TAの方々、各実験・実習室の職員の方々に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



流体実験室での説明

第31回早大モビリティシンポジウムの開催報告

2011年11月19日（土）早稲田大学理工学部57号館にて、恒例の早大モビリティシンポジウムが開催され、学内外から約300人の方々の参加を得ました。このシンポジウムは、早大モビリティ研究会（代表 大聖泰弘教授）の主催、総合機械工学科、機友会、次世代自動車リサーチセンター（環境総研）の協賛により、一般公開の形式で毎年行われており、31回目を数えるに至りました。

今回は、東日本大震災から復興に当たって環境エネルギーに関わる課題が一段と厳しさを増すなか、自動車技術がこれにどう応えるかが問われる状況での開催となりました。大聖泰弘教授の開会あいさつに始まり、特別講演1、講演8、海外における動向・情報3、最近のモビリティ研究会活動の紹介等が行われました。以下に概要を紹介します。

（司会：早大 草鹿 仁、石 太郎）



大聖教授

■特別講演

「再生可能エネルギー有効利用の災害に強い地域主導型スマートグリッド」（早大教授 横山隆一）

■講演

「新型デュトロハイブリッドの開発」（日野 山形啓太）

「ポスト新長期排ガス規制対応 新型GH7/GH5エンジンの開発」（UDトラックス 菅原健祐）

「Hondaにおける電動車両・電動化技術への取り組み」（本田技研 近藤 一）

「スイフト レンジエクステンダーの開発」（スズキ 飯野隼人）

「新型I3 1.2Lスーパーチャージャーガソリンエンジンの燃焼性能設計

—CFDを用いた燃焼性能設計による良燃費と他性能の両立—（日産 三藤祐子）

「持続可能なモビリティ社会を目指して—豊田市低炭素社会システム実証実験の概要—」（トヨタ 川本雅之）



斎藤名誉教授

「ガソリンエンジン限界への挑戦と新型ディーゼルエンジンSKYACTIV-D2.2Lの紹介」（マツダ 中井英二）

「「第3のエコカー」イースのエンジン低燃費技術」（ダイハツ 和田 耕）

■海外における動向・情報

「Electromobility Siemens Research Topics」（Siemens AG, Karl-Josef Kuhn）

「Integration of Biofuels and Thailand Automotive Industries」（NMMTC Thailand, Nuwong Chollacoop）

「最近のアメリカ自動車事情」（コンサルタント 大澤三保）

■研究紹介

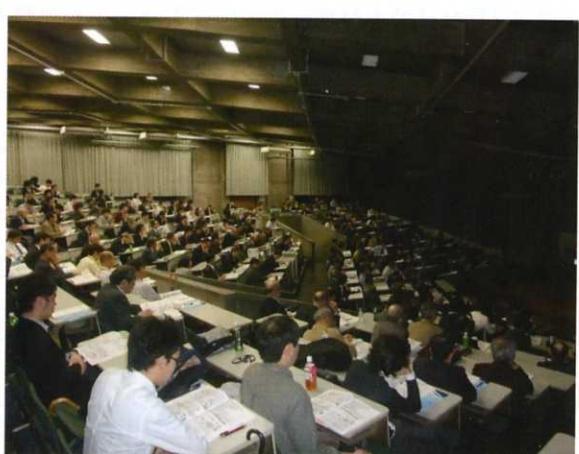
「最近のモビリティ研究会の活動について」（早大教授 大聖泰宏・草加 仁・紙屋雄史、研究者代表 大聖泰弘）

このように、環境エネルギー、最新のガソリンやディーゼルエンジンの燃費改善技術、電動化技術、都市モビリティの取組み、海外動向・情報の提供等、多様な視点から、モビリティ社会に貢献する革新的な自動車技術が紹介されました。斎藤孟名誉教授の閉会の辞で締めくくられ、その後の懇親会では、シンポジウムの話題について熱のこもった意見交換が行われました。

来年度は11月17日（土）の開催を予定しております。近づきましたらHP等でプログラムをご案内しますので、引き続きご支援、ご参加をよろしくお願い致します。

（敬称略）

（文責 石 太郎）



会場風景

パネルディスカッション に参加して

就職への第一歩であるパネルディスカッションが開催されました。教室が満員になるほど多数の学生諸君が出席してくれました。今回は、①JX日鉱日石エネルギー ②MAZDA ③富士電機 ④日本精工 ⑤CORNING ⑥新日本製鐵の6社から各一人ずつOB (JXはOG) が訪れ、とても貴重なお話を伺うことができました。

今年は暑さが長引いた事もあり、例年に比べより一層寒さを感じる12月。ついに、学部3年生及び大学院1年生の就職活動が本格的にスタートしました。開始時期が遅く、今年の寒さのように始まった就職活動に強い焦りを感じているのは私だけではないと思います。そんな中開催されたパネルディスカッションだったため、少しでも多くの事を学びたい、という気持ちで今回参加させていただきました。実際、パネルディスカッションでは、普段の学生生活では知る事のできない、OB・OGの方々の「本音」を聞くことができ、今後就職活動を行っていく上で意識すべきことについて考える良いきっかけとなりました。

パネルディスカッションでは学生からの質問も多く見受けられました。特に強く印象に残った事は、就職における学士卒と修士卒の違いについての質問に対して、学士卒の学生には伸びしろを求められ、修士卒には開発という業務で使える人材というものを求めら

れているというお答えでした。先輩方から頂いたこのお答えから、修士卒の学生には研究のあり方を学んでいる事の大切さ、また学士卒の学生には修士卒の学生よりのびる見込みがあるという事を示せるようになるために就職活動だけではなく日頃の研究や活動もこのような意識を持ちながら行おうと思いました。

また、働くという事において自分がどのような事をやりたいのかを考えながら活動することが大事だと思いました。企業が何かくれるわけではない。自ら目標を立ててそれを面接の場で自分の言葉で言えるようにならなければならぬというアドバイスをこれから就職活動に活かしていきたいと思います。

また、研究室での研究というものに對しても貴重なアドバイスを頂き、これから研究を行う上での軸としていきたいと思います。研究を行う上でまず問題は何か、今までどういうアプローチがされてきたか、そして自分はどういうアプローチをするのかというプロ

セスを作る事の大切さを教えて頂きました。研究室での研究は、今までやってきた勉強とは違い、今現在どこにも解がないもの、教科書に答えが書いていないものへチャレンジしていく事ですが、そのプロセスを大事にしながら今後研究、就職活動に取り組みたいと思います。

以上がパネルディスカッションの概要です。先輩方の様々な意見に触れ、とても有意義な時間となりました。また、パネルディスカッション後の懇親会も、社会人の先輩方とお酒を交え、より気軽に質問し、お話を聞かせて頂ける会となり大変貴重な機会となりました。懇親会の会場は、会場に納まりきらないほど参加者が多く、学生は積極的に質問しており、大変盛況であったと思います。最後に、機械科学・航空学科、総合機械工学科の後輩のために、貴重な時間を割いてパネルディスカッションに参加して頂いた先輩方に厚くお礼申し上げます。

(文責 川田貴大)

事務局からのお知らせ

本村・中江両先生の退職のお知らせ

本年3月31日で本村貢先生・中江秀雄先生が退職なされます。

本村先生は1968年に助手として機械工学科に嘱任され1972年から専任教員として44年間教育・研究に従事し、500名以上の学生さんが卒業しました。

また、中江先生は1983年に金属工学科の教授として嘱任され2007年に理工学部の再編に伴い、機械科学・航空学科に所属されました。

総会のお知らせ【5月19日【第三土曜日】】です

早稲田機友会では、会則に伴い毎年5月下旬のとおり総会を行っています。会員の皆様方の多数参加をお待ちしています。総会についてはホームページ、早稲田学報等にも掲載していますのでご覧ください。

日 時	5月19日（土） 2時30分～
場 所	理工キャンパス：55号館N棟大会議室
行 事	総会（会計報告・事業報告）
	記念講演 東芝常任顧問 並木正夫（昭48年卒）
懇親会	理工カフェテラス（56号館地下）
会 費	2,000円

事務局からのお知らせ

昭和32年卒機友会懇親会

32年卒業の懇親会もここ竹内ラウンジで行うようになって、5年になります。

いつもたくさんのご出席有難うございます。

今年も下記のとおり行います。奮って参加してください。お待ちしています。

場所 早稲田大学理工キャンパス
55号館-2F竹内ラウンジ

日時 每年4月および10月の第3火曜日(13時~ 2時間)

●平成24年4月17日 ●平成24年10月16日

会費 2,000円程度。酒類は大学構内では入手不可、持込みは可(ただし責任をもって片付けをお願いします。)

幹事有志 江口、石岡、石浜、大石、西野入・他

第28回 機友会ゴルフコンペ開催のお知らせ

機友会ゴルフコンペも28回となりました。昨年は東北地方の震災で秋の1回だけになりました。少しずつですが世代交代しつつある中で、初参加の下山さん(37年卒)が優勝しました。新しい方々の参加をゴルフ委員一同お待ちしています。

日時 2012年5月17日(木) 8:00分 集合
場所 川崎国際生田緑地ゴルフ場
会費 プレー費 16,000円+食事代+5,000円
(懇親会費・賞品代・その他経費)
問合せ先 機友会事務局 佐々木まで
e-mail: waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

※30回目には思い出になる記念品を考えています。

ホームページアドレスのお知らせ

<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

事務局からのお知らせ・見学会・イブニングサロン等のお知らせをしています。

カウントを付けています。現在9,053です。まだまだ利用が少ないようなのでたまに見てください。

機友会E-mailアドレスのお知らせ

機友会のアドレスです。会員の皆様から連絡はこのアドレスでお願いします。

waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

会員訃報

2011年2月以降に、下記の会員の訃報の連絡がありました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

卒年	学歴	氏名	逝去年月
昭和7	旧機械	芳野 重正	2011.2.8
昭和16	専機	河野 繁行	2010.11.22
昭和16	専機	木山 輝隆	2009
昭和17	旧機械	黒川 芳雄	2010.10.12
昭和17	旧機械	峯岸 敬	2008.11.23
昭和17	旧機械	原 弘	
昭和18	旧機械	小川 善次郎	2010.10.18
昭和19	専機	岸野 博	2010.6
昭和20	専機	松本 正之	2010.12.3
昭和21	旧機械	栗原 宏	2011.1.28
昭和22	専機	渡辺 敏晴	2004.10.3
昭和22	専運	内藤 寛	2010.2.21
昭和22	専機	横山 秀雄	2010.11.11
昭和24	専機	本多 秀男	2010.4
昭和24	専運	阿部 英友	2002.5.26
昭和24	専運	飯沢 美雄	
昭和24	専運	小林 正男	2005.12.27
昭和24	専運	捧 翼	2005.4.13
昭和24	専運	杉坂 倭	2004.12.23
昭和24	専運	高塙 錠二	2006.7.15
昭和24	専運	古田 慎	2003.7.21

卒年	学歴	氏名	逝去年月
昭和24	専運	宮本 明	2004.9
昭和24	専運	大崎 恵一郎	2009.4.17
昭和24	専運	大塚 恒三郎	2008.12.21
昭和24	専運	工藤 利一	2010.11.7
昭和24	専運	栗原 祐司	2010.11.18
昭和24	専運	角村 力	2010.12.27
昭和24	専運	中島 福三郎	2009.5
昭和24	専運	横山 昌巳	2010.8.5
昭和24	専運	小林 一正	2010.5
昭和26	旧機械	高橋 雄三	2010.12.26
昭和27	一機械	柳田 清吉	2011.6.13
昭和27	一機械	金田 元吉	2011.8.10
昭和28	二機械	苅部 宗治	2010.12.31
昭和28	一機械	岡 正徳	2010.1.10
昭和29	二機械	井出 房吉	2011.1.6
昭和29	二機械	大平 武輝	2010.3.26
昭和30	一機械	木村 黙	2010.12.21
昭和30	一機械	栗野 常久	2011.4.17
昭和30	二機械	新美 正臣	2011.4
昭和30	二機械	徳岡 一吉	
昭和31	一機械	米山 洋	2011.8

卒年	学歴	氏名	逝去年月
昭和31	一機械	小島 幹治	2009.10.5
昭和32	二機械	岩井 明	2011.7
昭和32	一機械	揚原 静雄	2006.7
昭和33	二機械	萩本 安是	1998.10.22
昭和35	二機械	佐藤 達男	2011.1.28
昭和35	二機械	石塚 勝一	2011.1.2
昭和35	二機械	西名 正守	2011.1.18
昭和35	二機械	長澤 敏雄	2011.2.10
昭和36	一機械	北浦 彌	2010.7.16
昭和36	一機械	石井 允明	2011.9
昭和39	一機械	吉尾 彰	2010.12.7
昭和40	一機械	今井 信好	2011.7.17
昭和42	一機械	木村 良男	2011.3.25
昭和43	一機械	小椋 謙二	2008.7.6
昭和43	一機械	中里 有宏	2011.4.4
昭和44	機械	本庄 寿史	2007.8.22
昭和47	機械	外村 喜信	2007
昭和51	機械	東 宏治	2011.10.31
昭和62	機械	佐竹 信郎	

事務局からのお知らせ

会費納入の注意点（必読）

春号（4月1日発行）・秋号（10月1日）のニュースレターに同封している郵便局の振込用紙はダイレクトメールで発送するため全員に同封しています。当年度までの納入者と昭和34年以前に卒業の方々にはサポート費と印字した振込用紙を同封しています。ご支援をいただけたら思っています。よろしくお願ひします。また、下記の2点にご注意ください。

- ① 銀行口座自動引落しの方は破棄してください。
- ② 住所シールに記載されている納入年度を確認して必要の方は破棄してください。

会費納入のお願い

※会費は1年間分 3,000円 4年間分 12,000円

会費規定が変わり割引額がなくなりました。機友会の活動は皆様方からの会費を財源に運用しています。是非皆様からの納入をお待ちしています。

納入については郵便局、または下記銀行からお振込みください。

三菱東京UFJ銀行 新宿通支店 普通口座 No.2460079

りそな銀行 新宿支店 普通口座 No.1375963

なお、お振込みの際は同姓同名がありますので、卒年・氏名（フリガナ）を必ずご記入ください。

会費納入についての注意点（会費は遡らなくていいんです）

会費を今までに一度も納入していない方、何年か納入しないで空いてしまった方が、遡って納入してくれる会員の方がいます。たいへん気を使っていただき有難いのですが、会費を遡っていただく規則がありません。一度も納入してなくても、空いてしまっても当年からの納入で結構です。以上のことから過去の会費は気にしないで納入をしていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

会費の自動引落し窓口を開設しています

会費納入に便利な銀行口座自動引落しの窓口を設けています。会費は1年間2,750円と少しだけお安くしています。ご利用される方は申込み用紙をお送りしますので事務局までご連絡ください。ただし、4月1日からの開始となります。

※たとえば5月に申込みをいただいたても、翌年の4月1日からになります。

住所・E-mail等の変更があった時はご連絡ください

事務局から発送する郵便物が受取人不明のため返却されることがたいへん多くなっています。個人情報保護法の問題もあり確認が極めて困難になっています。

お手数ですが住所・勤務先・E-mail等の変更が生じた時は事務局までメールでお知らせください。または電話・FAXでもかまいません。よろしくお願ひします。

100周年記念誌を一冊3,000円でお分けします。（本年度中）

昨年の11月26日に記念式典を大隈講堂に於いて盛大に行うことができました。併せて、記念誌も発行しました。内容は卒業生からのメッセージ、教員からの第2世紀へ向けての将来構想、これまでの機械工学科の歩み等、貴重な情報が盛り込まれており、大変良く出来ています。

ご希望の方は同封した払込取扱票の空欄に記念誌代3,000円と記入して、お申込みいただくか、メールで申込みしていただいても結構です。よろしくお願ひします。

機友会事務局より



編集後記

本号では、100周年記念式典の内容をお届けしました。長く記録として残したい記事です。また、昨年は秋号を発行していないので、その分、記事が多くなり、本号は20ページの特大号になっています。

今年は冬の寒さが特に厳しく、早い春の訪れが待たれました。暖かな春と共に日本の景気も回復し、活気あふれる社会となる事を期待したいと思います。

（編集担当理事 萩須吉洋（昭和40年卒））

機友会事務局

月、火、木、金 の 10:00~16:00

浅井、伊藤、荻須、佐々木

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学理工学部内55号館S棟2階

電話 03-3203-4141(大代表)

内線73-5252

TEL/FAX 03-3205-9727

E-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

W.M.E ニュースレター 第36号

発行元 早稲田機友会編集委員会

印刷 神谷印刷株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24